

ひょうごの 遺跡

110号



(公財)兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1 兵庫県立考古博物館内 TEL.079-437-5561 FAX.079-437-5591 URL:https://www.hyogo-ctc.or.jp/

令和5年度 発掘調査速報

未知の古代寺院に迫る！

―前田遺跡(姫路市網干区高田)

加古川中流域の集落遺跡

―上戸田遺跡(西脇市上戸田)

中世の港町の一角を掘る

―辰巳橋遺跡(尼崎市東本町)

集落域は更に東へ

―才村遺跡(姫路市広畑区才)

淡路島に展開する山間地集落

―治郎ノソリ遺跡(洲本市五色町鮎原)

公開活用現場から

前田遺跡成果速報展示

辰巳橋遺跡の公開と活用

ひょうごの掘り出しもの

～第8回～ 縄文時代の「徳利」！？

未知の古代寺院に迫る！

前田遺跡（姫路市網干区高田）



動画はこちらから

前田遺跡は姫路市網干区高田に広がる遺跡です。これまでの調査で、北側で古墳時代中期の集落が確認され、東側で古代の掘立柱建物や瓦を伴う溝が見つっています。

令和5年度は一般県道網干停車場新舞子線建設に伴い、遺跡範囲の西側で発掘調査を実施しました。

古代瓦の出土

調査では、非常に多くの古代の瓦が出土しました。丸瓦や平瓦だけでなく、軒を飾る軒瓦も多くあり、文様の種類も豊富です。文様から7～9世紀のものと考えられます。瓦の量や種類から見て、調査範囲の近くに瓦葺きの建物、その中でも寺院があった可能性が高まりました。

出土した瓦のうち、軒丸瓦2種類と唐草文軒平瓦はたつの市の碓岩南山瓦窯で出土した瓦と同じ文様と分かりました。前田遺跡で使われた瓦の多くはこの窯で作られたものと考えられます。

瓦以外の出土品

瓦以外にも、古代の土器（土師器・須恵



今回の調査範囲とその周辺（南西から）

器）も多く出土しました。大半は食器で、貯蔵のための甕や壺の破片もあります。その中でも、須恵器の稜椀は金属器を模倣したとされる屈曲した形が特徴で、寺院や役所などで出土することが多い器種です。

また、煤が付着した土師器の皿は、油を注ぎ、明かりを灯していたもの（灯明皿）と考えられます。これらは寺院での儀礼や生活に使われていたのでしょう。

寺院の痕跡

古代の遺構は調査区の東側で多く見つかりました。特にほぼ正南北の方位をとる溝（SD200）からは瓦が多く出土しており、寺院を区画する施設（築地塀など）に伴う



主な出土品（縮尺不同）

遺構の可能性が考えられます。

平成 28 年度の発掘調査でも同様に、瓦を伴う南北溝 (SD11B150) が見つっています。2つの溝の間は 108 ~ 109 m で、尺貫法の 1 町に対応します。古代寺院の範囲 (寺域) は 1 町を単位とする場合が多いことから、SD200 が寺域の西辺 SD11B150 が東辺になる可能性があります。

ほかにも、SD200 に平行する溝状遺構 (SD227) や井戸からも瓦が出土しており、寺院と同じ時期の遺構と考えられます。

寺院はどこに？

今回の調査では、瓦の出土状況や南北の溝が見つかったことで、前田遺跡やその周辺に 7 ~ 9 世紀の寺院があった可能性が高まり、未発見の古代寺院の一端をうかがい知る重要な資料を得ることができました。

堂や塔などの建物 (伽藍^{がらん}) は確認されていませんが、今回見つかった南北溝を寺院の西辺とすると、調査範囲東側の未調査のエリアにあると想定されます。さらに、築地塀^{しちどう}を設けていた場合、七堂伽藍と呼ばれる規模の大きな寺院の可能性も考えられます。今後の調査の進展に期待が高まります。

(調査第 1 課 岡田大雄)



調査区平面オルソ図 (S = 1/400)



SD200 検出時の状況 (南西から)



SD227 全景 (南西から)



SD200 とSD11B150 の位置関係 (S = 1/2000、ベースマップは国土地理院航空写真を使用)

加古川中流域の集落遺跡

上戸田遺跡 (西脇市上戸田)

上戸田遺跡は加古川西岸の自然堤防上に位置します。令和5年度は道路の橋脚が建てられる3か所を1～3区として発掘調査を実施しました。

1区では、埋土に平安時代後期～鎌倉時代頃の土器を含む溝などを検出しました。

2区では、4面の遺構面が確認され、第1面では中世以降、第2面では平安時代後期～鎌倉時代頃、第3面と第4面では弥生時代後期頃の遺構を検出しました。第1面と第2面では水田、溝などを検出しました。耕作に伴う^{すきみぞ}鋤溝と考えられる浅い溝も見つかりました。第3面では多数の小穴と土坑を検出しましたが、配置などから建物の柱穴と判断できるものではありませんでした。第4面では、幅約3.0mの溝を検出しました。溝の中からは、弥生時代後期頃の甕・高杯などの土器がまとまって出土しました。

3区では、竪穴建物、溝、土坑などを検出しました。竪穴建物は令和2年度の発掘調査で見つかった建物の続きの部分で、壁際にめぐらせた周壁溝の一部を検出しました。出土遺物から弥生時代後期頃のものと考えられます。また、埋土に平安時代後期

～鎌倉時代頃の須恵器を含む土坑も見つかりました。

上戸田遺跡では、主に弥生時代後期頃と平安時代後期～鎌倉時代頃の2つの時期に、人々の生活が営まれたと考えられます。検出した多くの溝で土地の排水が行われ、安定が確保された^{びこうち}微高地上を中心に集落が形成されたと考えられます。

平成30年度に始まった一般国道175号西脇北バイパスの建設に伴う上戸田遺跡の本発掘調査は令和5年度で終了しました。令和6年度以降、報告書刊行に向けた整理作業が進められる予定です。

(調査第2課 三好元樹)



調査地遠景 (北西から)



3区 竪穴建物検出時の状況



3区 土坑出土須恵器検出時の状況

中世の港町の一角を掘る

辰巳橋遺跡（尼崎市東本町）

辰巳橋遺跡は、神崎川の支流である左門殿川の右岸に立地する臨海部の遺跡です。

神崎川は中世まで三国川と呼ばれており、かつて淀川とは別流でした。『続日本紀』には延暦4（785）年に淀川と三国川を結ぶ運河が造られたと記されています。この開削によって、神崎川流域は主要水路となり、当遺跡の所在する神崎川河口付近（河尻地域）は港町として栄えました。

調査地から約0.5km北西の地点には大物遺跡があります。大物遺跡は、12世紀前半～13世紀後半にかけての時期に瀬戸内海沿岸地域から搬入された土器や輸入陶磁器が多数出土したことで知られています。

今回の発掘調査では、中世後期～近世後期（14～19世紀）にかけての遺構と遺物が見つかりました。

中世の遺構は主に小穴、土坑などを確認しましたが、性格が分かる遺構は多くありません。しかし、遺物では多量の土師器小皿（かわらけ）をはじめ、土師器の鍋や羽釜、瓦質土器の羽釜や香炉、龍泉窯系の青磁碗、白磁皿、小杯、備前焼播鉢・甕・壺、銅銭などが出土しています。特に15世紀の遺物が多く見られます。遺跡一帯では頻繁な整地が行われたようで、建物の痕跡が残らなかったのだと考えられます。

近世の遺構は小穴、土坑に加えて井戸や便槽などがあります。土坑の多くは、出土遺物の量や出土状況から、遺構が本来の目的で使用されなくなった後に、廃棄用土坑として利用されたと推測できます。

土坑に廃棄された遺物には、「くらわんか碗」と呼ばれる長崎県の波佐見で生産さ

れた18世紀頃の粗製染付磁器が多く見られます。

当遺跡が所在する河尻地域は、淀川に接続する運河が開削されて以来、古代から中世には港町として、近世には尼崎城下町として、一貫して人々の往来が盛んな地域でした。

今回の調査によって、大物遺跡で遺物の出土量が減少する14世紀以降の遺物が多く見つかったことは重要です。河尻地域の中でも、時期によって人々が多く集まる場所が変遷していることが推測できます。

地域の歴史を復元する上で、貴重な成果が得られたと言えるでしょう。

（整理保存課 池田 旭）



調査地と阪神高速3号神戸線（北東から）



備前焼の埋甕（東から）

集落域は更に東へ

才村遺跡 (姫路市広畑区才)

才村遺跡は夢前川右岸の沖積地に立地する集落遺跡です。市道の拡幅に伴う発掘調査で、古墳時代～中世の遺構・遺物を確認しました。また5区では、東側に遺構が密集していることが分かりました。

見つかった遺構は、古墳時代の竪穴建物1棟や溝、中世の掘立柱建物2棟や中世墓と見られる土坑などがあります。

才村遺跡は令和2年度や令和4年度の調査で同時期の遺構を多く確認し、集落の存在が明らかとなっていました。今回の調査では、その集落域が更に東へ広がることが明らかとなりました。また、5区の東に遺構が密集していることから、より東に集落範囲が延びることが想定できます。

(整理保存課 鈴木郁哉)



調査地遠景 (西から)



5区全景 (上が北)

淡路島に展開する山間地集落

治郎ノソリ遺跡 (洲本市五色町鮎原)

治郎ノソリ遺跡は相原川北岸の丘陵斜面にあり、淡路島中央部に位置しています。今回、経営体育成基盤整備事業 (相原地区) の一環として発掘調査を実施しました。

調査の結果、弥生時代後期と中世の遺構が見つかりました。特に弥生時代では、丘陵上から南方に流れる溝1条などを検出し、溝からは壺や甕などの破片が出土しました。溝は相原川に接続する水路として利用されたと考えられ、より丘陵上に集落が存在した可能性があります。

遺跡の西方に位置する鮎原南谷地区では、弥生時代後期を中心に竪穴建物を伴う遺跡が複数見つっています。その多くは丘陵上に集落を構える「山間地集落」として知られており、遺跡の立地や出土した土

器などから、当遺跡も同様の性格を有する集落であったと考えられます。

今回の調査によって、鮎原南谷に展開する山間地集落がより東側にも広がることが明らかとなり、当該地域での人々の活動領域を検討する上で重要な成果となりました。

(調査第2課 垣内翼)



調査地遠景 (北東から)

前田遺跡成果速報展示

前田遺跡の発掘調査では、古代寺院に関わる遺構や多種多量の瓦の出土など、貴重な成果を挙げることができました。

そこで、3月20日～6月2日に姫路市埋蔵文化財センターにてパネルでの速報展示を行いました。

展示では、遺跡の概要や調査成果のほか、遺構や遺物を動画やARで表示できる二次元コードを掲載しました。スマートフォンやタブレットで二次元コードを読み込むことにより、動画で瓦の形や文様を見ること、ARで実際に調査区に立っているかのような画面を見ることができます。

今後も様々な方法で調査成果をお伝えしますので、ご期待ください。

(整理保存課 鈴木郁哉)



展示の様子



軒丸瓦のAR表示

辰巳橋遺跡の公開と活用

辰巳橋遺跡は尼崎市東本町に所在する中世～近世の遺跡です(詳しくは本誌5頁)。11月下旬～1月中旬にかけて、発掘調査を実施しました。

調査期間中、地域の文化財を身近に感じてもらうための試みとして、現地での発掘調査体験会と尼崎市立歴史博物館にて発掘調査成果の速報パネル展を行いました。

発掘調査体験会は、令和5年12月10日に開催し、21名の参加がありました。尼崎市域だけでなく、県内外の様々な地域から参加いただきました。

当遺跡は臨海部に位置し、地盤は砂地で軟弱であったために掘削が比較的容易であり、遺物の出土量も多かったことから、アンケート結果は非常に好評でした。

例年多い傾向のある親子世代だけに偏らず、学生やシニア世代など、幅広い世代の方々に体験会を楽しんでいただけたことは有意義であったと思います。

今後もセンターでは様々な形で調査成果を公開し、活用する方法を考えていきますのでご期待ください。

(整理保存課 池田 旭)



発掘調査体験会の様子

ひょうごの 掘り出しもの

～第8回～

縄文時代の「徳利」！？

(淡路市 ^{つくだ} 佃遺跡)

兵庫県立考古博物館の展示室では、淡路島の北部に位置する佃遺跡の調査成果をもとに、約3,500年前頃の縄文時代の人々の暮らしを復元しています。「森と海に生きるナチュラルリスト」である縄文人がおだやかな自然環境の中で、豊かな自然の恵みを得ていることが明らかとなりました(写真1)。森では弓矢を使ってシカやイノシシを狩猟し、また多くの木の実を採集しています。海では丸木舟を使ってタイやイルカの漁にも成功し



写真1 兵庫県立考古博物館内の展示室

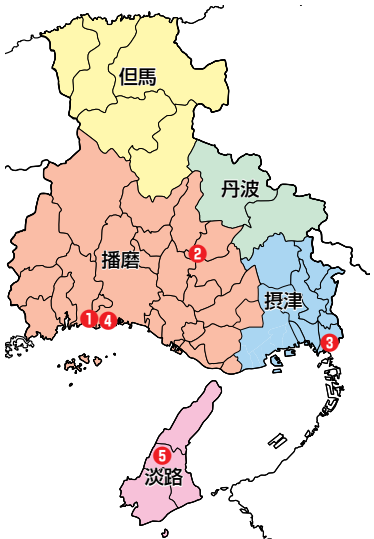
ています。ムラに持ち帰った多種多様な自然の恵みを、土器を使って煮炊きし、豊かな食生活を送っていました。またマツリの道具も数多く見つかっています。

私が平成3(1991)年に発掘調査を担当していたとき、発掘作業員さんから「徳利が出た!!」と呼び止められました。確かに、「徳利」の形をした、親指とひとさし指で挟んで持つとしくりくる、長さ約9cmの土製品でした。縄文人のマツリにもお酒は欠かせなかったようですが、残念ながらこの「徳利」は、接合・復元すると推定全長27cm前後の大型土偶の「右足部分」であることが判明しました(写真2)。



(調査部次長 山本 誠)

写真2 土偶



本誌に掲載の遺跡

- ①前田遺跡
姫路市網干区高田
- ②上戸田遺跡
西脇市上戸田
- ③辰巳橋遺跡
尼崎市東本町
- ④才村遺跡
姫路市広畑区才
- ⑤治郎ノソリ遺跡
洲本市五色町鮎原



夏季企画展
ひょうご
発掘調査速報
2024
2024年7月13日(土)～8月25日(日)

兵庫県立考古博物館
Hyogo Prefectural Museum of Archaeology

編集後記

本号では、令和5年度に行った発掘調査や成果速報展示、発掘体験会について紹介しました。

次号は久々の特集号を予定しています。ぜひご期待ください!

(調査第2課 垣内翼)

『ひょうごの遺跡』バックナンバーはこちら!

https://www.hyogo-kouhaku.jp/modules/book/index.php?action=PageList&category_id=3
<https://www.hyogo-ctc.or.jp/iseki/>

1～82号

考古博物館HP



83号～

CTC HP



公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター
Hyogo Construction Technology Center for Regional Development